

のぞましい家庭教育のしおり

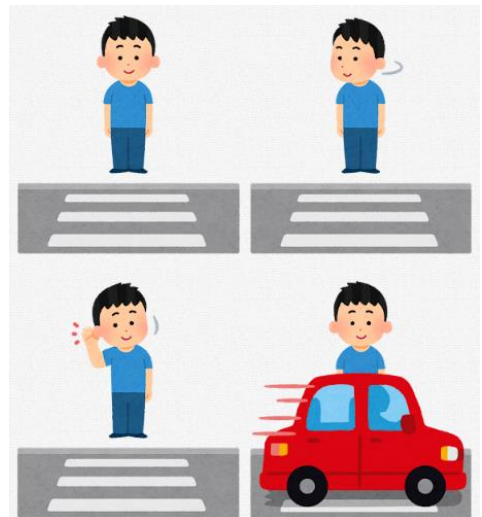
交通安全～自分で危険を回避する力を～

先日、10 か月になった息子が、私の脚を掴んで立ち上がり、手を放して5秒ほど自力で立ちました。ついこの間まで、抱っこをしないと自分で体を起こすこともできなかったのに、自分で座り、リビング中をハイハイして回ります。成長の早さに、驚きと喜びを感じる毎日です。

息子が座り始めた頃は、何度もバランスを崩しては転び、床で頭を打って大声で泣いていました。その様子を見て、転びそうになるとついつい手を伸ばして体を支えていました。日が経つにつれ、転んで頭を打って泣きはするものの、すぐに泣き止み、再び体を起こしておもちゃで遊ぶようになりました。そのうち、転んでも頭を打たないように頭を持ち上げるようになりました。掴まり立ちをし始めたときも、よろよろと立ち上がっては、バランスを取りきれず顔から床に落ちるように転んで号泣していましたが、次第にバランスが崩れそうになると、尻餅をついて安全に着地するようになりました。そうした息子の姿を見ると、彼なりに小さな危険を乗り越えながら、痛い思いをしないための術を身に付けているのだと感じさせられました。

新卒の頃勤めていた小学校で、学年主任の先生が卒業式で保護者の方に話していたことを最近になってよく思い出します。「子どもが赤ちゃんのうちには胸に抱いて放さず、幼児は手をつないで放さず、小学生は目を放さず、中学生は心を放さず、高校生以上になったら時々は心を放してあげる。子どもが大人の想像のつかない所へ行こうとするのは心配だけど、少し離れて見守るのが大人の仕事です」と。

今、私は中学校で勤めています。日々下校指導をしていて、二つのことが気になっています。まずは、周囲に目もくれずに道を横切ろうとする子どもが増えていること。そして一方、信号のない横断歩道で、自動車が近づいてくると教員が子どもたちを止めてしまい、子どもたちが自分で安全確認をしなくてもよい状況ができていることです。



交通事故の原因は、周りの環境と自分の行動が関わり合って発生します。周りの環境をコントロールすることはできません。だからこそ、周りの状況に合わせて自分の行動を律していくことが必要になります。子どもたちが交通事故に遭わずに生きていけるように、ただ危険を排除するだけではなく、子どもたちが成長段階に応じて小さな危険を認知して対処する能力を身に付けていけるように支援していくことが大切だと感じています。

一人で悩まないで、まず相談を

- ・刈谷市 子ども相談センター ～子どもに関する相談の総合的な窓口～
月～土曜 9時～17時（国民の祝日・年末年始を除く）

電話相談・来室相談

☎0566-62-6313

- ・愛知県 教育相談こころの電話 10時～22時 ☎052-261-9671